

## ユニバーサルデザインの視点を踏まえた「学びやすさ」の構築 行動の背景を考えよう④

【指導室 特別支援教育班】



今回も、教室にいる「気になる子供の行動について、その特性や要因を踏まえて支援を講じる」です。これまで、全体への支援（一次支援）、全体の中で行うさりげない支援（二次支援）、個々への支援（三次支援）について触れてきました。今回は、学校全体で連携して支援し、子供の「学びやすさ」を構築していくことについて紹介します。

例

授業に必要なものを机に出さず、勉強に取り組もうとしない。ちょっとしたことでかっとなり、人や物にあたることもある。



- ・衝動性が強い特性なのかもしれない。
- ・失敗を繰り返していて、自尊感情が低下しているのかもしれない。
- ・相互のコミュニケーション力が弱いなのかもしれない。
- ・注意集中することが苦手なのかもしれない。

小学6年生

手立て



対応例1：学校全体で行動を把握し、他の教師や養護教諭、管理職とも連携できるようにする。

- ・どの場面でどのような行動をしがちか確認する。
- ・問題が起きたときの連絡方法、誰が対応するか等の役割を確認しておく。
- ・相談室など、心を開ける「居場所」をつくる。
- ・相性の良くない子供がいることが分かれば、その情報を校内で共有し、距離をあげるように対応する。

調子はどう？

A君とは気が合わないんだ。

全校で共有しよう。

対応例2：イライラする気持ちを受け止める。

- ・「ばかやろう」などという攻撃的な言葉に反応し、否定するのではなく、「悔しかっただね」など、言葉の裏にある気持ちを言語化し受け止める。
- ・叱ったり注意したりするだけの関係から抜け出すために、トラブル場面以外でのかかわりを積極的に増やし、関係を築く。

ばかやろう！  
ぶっつぶす！

そっか。  
悔しかったね。

対応例3：活躍できる場をつくる。

- ・心機一転取り組めるように、これまでとは異なる場面を用意し、活躍できることを考える。
- ・すぐに活躍の場が見つからなくても、「ちゃんと見てるよ」など、気にかけていることを伝え続ける。

③ 運動会の応援団  
やってみたって！

Point !

- ・背景にある問題が複雑に積み重なっている場合は、変化が見られるまでに時間がかかると認識し、粘り強くかかわっていくことが大切です。
- ・できるところから一つ一つ取り組み、小さな変化を評価していきましょう。
- ・違ったタイプの子とのかかわり方がいい影響につながることもあります。多様性を認めて子供同士のかかわりを大切にしましょう。

### 【次の学びの場への引継ぎを】

小学校や中学校で続けた支援や、子供の学習面や行動面の困難さについては、確実に次の学びの場へ引継ぎをしましょう。子供の苦手さや試みた支援方法、支援の過程で起きた変化などを「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を活用して伝えていきます。

有効だった支援や、その中での本人の変化など、評価できる点も積極的に伝えましょう。これまで行った支援が引き継がれ、その土台のもと、次の展開につなげていくことができるように、ご家庭とも連携して引継ぎを進めましょう。

